


組織的・省力的 自給飼料生産システムの構築



新城設楽農林水産事務所農業改良普及課
新城駐在室 安藤 孝昭

課題の背景 地域の概要



- 総面積 929km²
農用地 38km² (4%)
- 平均気温 13~15℃
- 年間降水量 1,850~2,138mm
- 総世帯数 20,722戸(うち農家戸数2,231戸、専門的農家33%)
- 農業産出額 1,014千万円(うち畜産539千万(53.2%))

課題の背景 地域の畜産の概要

畜産経営類型	農家戸数	飼育頭羽数
和牛繁殖	52戸	737頭
酪農	14戸	1,080頭
肥育牛	6戸	1,323頭
養豚	4戸	4,240頭
養鶏	5戸	728,200羽

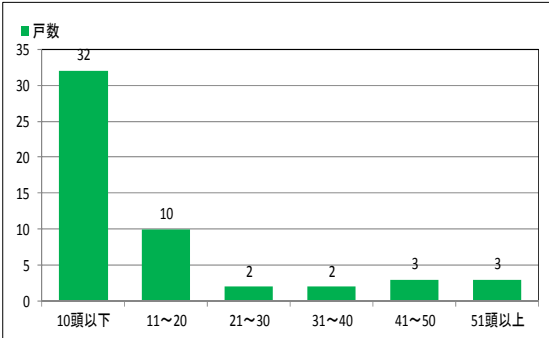
課題の背景 JA愛知東 和牛部会

- 和牛繁殖農家数 52戸
- 部会の平均年齢 65.2歳
- 母牛頭数 737頭
- 子牛出荷先 和牛子牛の専門市場「新城家畜市場」
H27年間取扱頭数 1,186頭 当部会 552頭(47%)



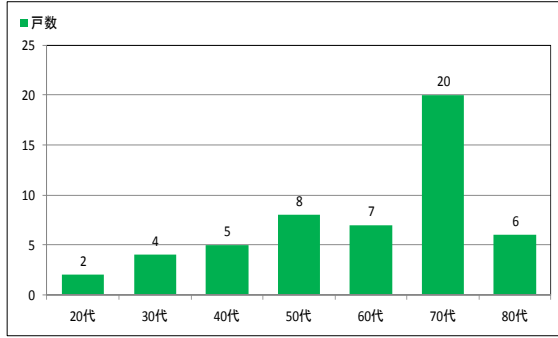
新城家畜市場

課題の背景 母牛頭数規模別農家戸数



母牛頭数規模	戸数
10頭以下	32
11~20	10
21~30	2
31~40	2
41~50	3
51頭以上	3

課題の背景 主たる経営者の年代別農家戸数



年代	戸数
20代	2
30代	4
40代	5
50代	8
60代	7
70代	20
80代	6

課題の背景 JA愛知東 和牛部会

- 和牛繁殖は、母牛を飼育し、子牛を産ませ、約8か月間育てて肥育農家に販売する。和牛繁殖農家の集まりです。
- 和牛繁殖農家数 52戸 母牛 737頭
- 部会の平均年齢 65.2歳
- 子牛出荷先 和牛子牛の専門市場「新城家畜市場」
H27年間取扱頭数 1,186頭 当部会 552頭(46.5%)



課題の背景 和牛部会の課題

- ① 農家の高齢化と戸数の減少
- ② 自給飼料作物の栽培面積の減少と品質・収量の低下
- ③ 種雄牛の偏りと母牛の高齢化による繁殖基盤の脆弱化

課題の背景 和牛部会の課題

自給飼料作物の栽培面積の減少と品質・収量の低下

- (1) 自給飼料の栽培面積の減少
 - ・労働負担が大きく、高齢者が栽培をやめる
 - ・収穫機械が高額で個人所有が困難
- (2) 稲発酵粗飼料(稲WCS)の品質と収量の低下
 - ・雑草による飼料用稲の生育不良
 - ・雑草混入による稲WCSの品質低下

目標と成果 目標

- (1) 飼料作の受託組織(コントラクター)の育成(組織的・省力的自給飼料生産システムの構築)
- (2) 水田転作による稲WCSの生産拡大
- (3) 稲WCSの品質・収量の向上



飼料作物生産の省力化と低コスト化

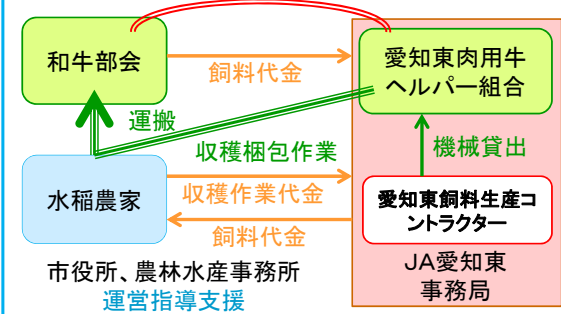


小規模・高齢者の和牛繁殖農家にも安価な粗飼料を供給することで経営継続を支援する

目標(1)の成果

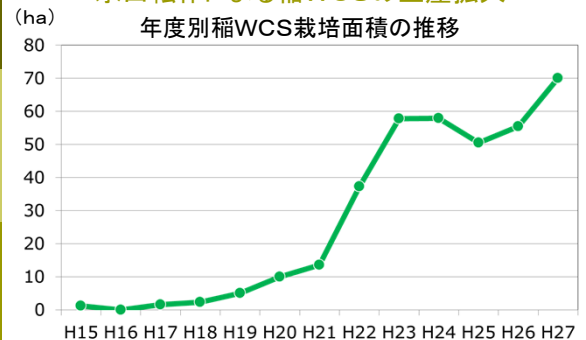
組織的・省力的自給飼料生産システムの構築

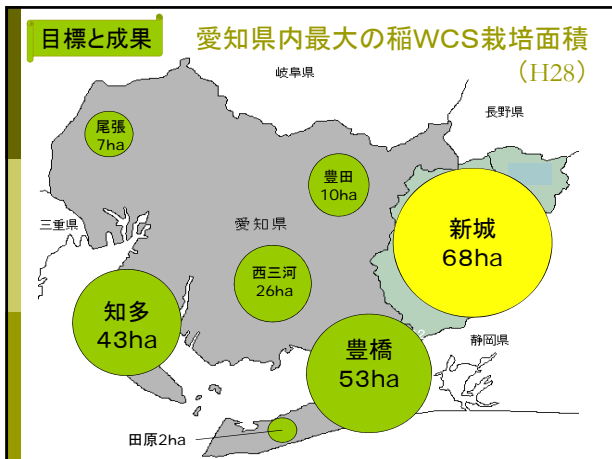
【特徴】ヘルパーの多くが和牛部会員→コスト削減



目標(2)の成果

水田転作による稲WCSの生産拡大





目標と成果 (3)栽培面積の増加とコスト低下

自給飼料栽培面積

区分	H15	H27
牧草	131ha	155ha
稲WCS	1ha	70ha
計	132ha	225ha

飼料kg単価

購入飼料		自給飼料	
スーダングラス	52.5円	ソルゴー	35.9円
県内産稲WCS	23.7円	稲WCS	8.9円

目標と成果 高齢者農家への粗飼料供給

稲WCSの年代別利用状況

年代	稲WCS利用農家(戸)	配分重量割合(%)
70歳以上	8	11.9
60~69歳	4	6.0
50~59歳	6	15.9
40~49歳	2	13.6
30~39歳	2	15.2
20~29歳	2	9.0

・60歳以上の高齢者農家12戸に若手和牛部会員が収穫した稲WCSを供給

目標と成果 小規模農家への粗飼料供給

稲WCSの飼養規模別利用状況

年代	稲WCS利用農家(戸)	配分重量割合(%)
10頭以下	11	17.2
11~20頭	7	17.3
21~30頭	0	0
31~40頭	1	6.1
41~50頭	2	14.2
51頭以上	3	28.8

・20頭以下の小規模和牛繁殖農家18戸に若手和牛部会員が収穫した稲WCSを供給



普及指導活動の経緯

「自分の牛が高く売れば良い」という、利己的な風潮を払拭する



新旧部会長と若手部会員

- ①部会リーダーと密に連携し、和牛子牛産地を維持するための協力体制づくりを推進
- ②若手部会員8名に部会の中核を担う意識を高める



(1) 若手部会員が核となり産地を継承発展

普及指導活動の経緯

個別農家での大型サイロ詰めや乾燥調製作業が大きな負担



事業検討会

- ①共同利用の収穫調製機械を導入するため、補助事業の活用を支援
- ②飼料生産コントラクター設立支援
 - ・高齢農家→安価な粗飼料が確保できる
 - ・若手部会員→作業料金収入による所得向上



(2) 組織的・省力的自給飼料生産システムの構築

普及指導活動の経緯

水田転作の未達成と購入粗飼料価格の高まり

- ①稲発酵粗飼料の栽培マニュアルを作成配布
- ②稲WCS収穫作業実演会を開催し、作業性と稲WCSに対する理解を促進



(3) 水田転作による稲WCSの生産拡大



収穫



梱包



野外保存

普及指導活動の経緯

WCS用稲の栽培年数を経るに従って、ヒエや下草の混入が増えた

- ①定植時の除草剤利用と水管理の徹底を指導
- ②関係機関担当者が揃って、全ての稲WCSの栽培ほ場を巡回し、収穫前の品質を評価



(4) 稲WCSの品質・収量の向上



生育不良で下草繁茂



全面にヒエの混入



全てのほ場を評価

成果を上げた要因

- (1) リーダーとの密接な連携
和牛農家の若手リーダー及び農協担当者と連携を密接にとり、誘導方向を事前に決めたこと
- (2) 数値と実演による有利性の提示
経営改善計画を作成支援し、補助事業の有利性をわかりやすく説明し、導入を推進したこと
- (3) 水稻農家の栽培意識の啓発
関係機関と連携し、稲WCS全ほ場を評価して、水稻農家の栽培意識を高めたこと

残された問題点

- (1) 愛知東飼料生産コントラクター所有機械の老朽化
- (2) 愛知東肉用牛ヘルパー組合の構成員の高齢化
- (3) 稲WCSの品質と収量の維持向上

今後の対応策

- ①機械の保守修繕費と利用料金の見直し
補助事業の計画的活用による機械更新
- ②定年退職者等新規ヘルパー要員の確保育成
- ③適期作業の啓発と品種検討